

1. 教育の責任

建学の精神である「Study for life」（生涯にわたる、人生のための学び）に基づき、校章に示される特徴を備え社会に貢献する人材を、看護基礎教育を通じて育成する責任を担っている。所属する国際看護学部基礎看護学領域においては、看護の対象である「人」を多様な側面をもつ存在として理解し、看護実践を通して人々の健康の回復、維持、増進に貢献できる看護職を育成する教育を実践している。

2. 教育の理念

看護は人々の健康上の必要に応える実践であるから、その実践を支える確かな看護の知識・技術・態度を身につけ、対象者の健康を全人的に捉え、多様な必要に高い倫理観をもって応え得る看護職を育てるための教育を行う。

3. 教育の方法

科目責任者として担当した科目より、看護学概論および基礎看護技術Ⅳについて述べる。

① 看護学概論

看護の諸学者が最初に学ぶ看護学の専門科目である。そのため、この科目に第一義的に求められることは、学生の看護への興味と関心が喚起され、看護は「面白そうだ」「もっと知りたい」と感じてもらうことにあると考える。まず生活の中の看護や身近に受けた看護の経験を振り返り、テキストに記される看護の定義がどのように当てはまるかを考えるグループワークを実施した。また看護の対象者は「人」であるため、人に関心を持つことも同時に重要である。人間理解のためにいくつかの理論を学び、リアクションシートにより自分自身に当てはめて振り返る課題を実施した。また看護学への学問的関心を育むことに加え、看護は実践であることから、保健医療福祉において重要は役割を担う専門職として、実践の責務を自覚できるよう事例を用いるなどの工夫をした。

② 基礎看護技術Ⅳ

本科目では、対象者の健康上の必要に応えるための技術、特に診療に伴う看護を学ぶ。演習科目として、看護実践に必要な専門的知識と技術を学習する。診療に伴う援助技術は、対象者に何らかの身体侵襲を伴うことから、治療の効用とリスク、与薬法や導尿など具体的な援助方法を学び、倫理面に配慮した安全・安楽な看護技術の習得を目指している。演習では、実践の根拠を踏まえ、手順書に従い患者・看護者の双方の立場でロールプレイングを行い、人間の尊厳の尊重、援助的対人関係のあり方を理解するとともに、安全・安楽を考慮した援助方法とその根拠を学ぶ工夫を重ね実施した。

4. 教育の成果

講義、演習共に、授業ごとにリアクションシート提出や課題を実施し教育の成果を確認した。これらを通し学生は講義・演習を振り返り、授業目標の達成ができたこと、難しかったことを文字に表し、その内容から授業ごとに理解度を確認している。課題・リアクションシートの内容より理解が不十分と理解される場合、その内容は次の授業で捕捉を行った。学生による授業評価では、看護学概論を例に挙げると、有用な知識や情報を習得したかどうかの設問に、回答者の約 80%が「そう思う」、約 20%が「ややそう思う」と授業の効果を評価している。半面、フリーコメントでは、「授業の繋がりを捉えるのが少し難しかった」「もう少しクイズや話し合いを設けたほうが良かった」などの記載があり、教育方法の改善を行った。

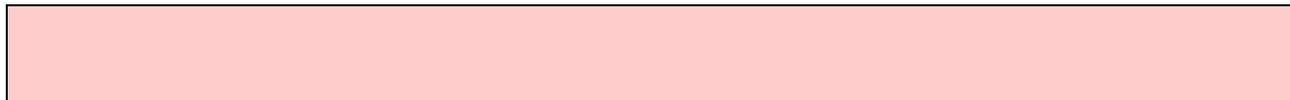
5. 改善への努力と今後の目標

学生による授業評価を参考に、分かりやすく、看護への興味・関心が喚起されるよう工夫と改善を進めたい。また、基礎看護学領域として、対象者理解と看護実践をイメージし、実践者として選ぶ看護の知識・技術・態度の根拠が明確であるよう、講義・演習の内容をブラッシュアップして行いたいと考えている。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：村上 寛 作成日：2025年1月8日

【添付資料】

A large rectangular area that has been redacted, appearing as a solid light red color. It is positioned directly below the '【添付資料】' header.